

議会運営委員会記録

招集（開催）年月日	令和2年4月28日（火）	
招集（開催）場所	岩美町役場 全員協議会室	
出席議員	田中克美委員長、寺垣智章副委員長、杉村宏委員、澤治樹委員	
欠席議員	なし	
議長等の出席	足立義明議長、柳正敏副議長	
職務出席者	鈴木浩次議会事務局長	
傍聴者	なし	
開会	午後2時00分	
記録者	議会事務局 鈴木浩次	
審査事項	別紙日程表のとおり	
協 議 の 経 過		
日 程	発 言 者	内 容
1. 開会	田中委員長	議会運営委員会を開会する。 急遽の議会運営委員会にお集まりいただき感謝する。 はじめに議長あいさつをお願いする。
2. あいさつ	足立議長	進めてほしい。
3. 協議事項	田中委員長	それでは協議事項を進める。
(1) 特別定額給付金	田中委員長	今日の議題は一つだ。例の特別定額給付金、国民一人10万円を等しく給付するもので、この定額給付金10万円についてだ。 広島知事が10万円を召し上げるような話があった。政府の中でも、自分が受け取らないのは常識だという趣旨の発言をする大臣がいた。県内でも、この10万円を議会としてまとめてコロナ対応に使おうという議論があるようだ。 さまざまな議論が聞こえてくるので、今後町民の中でもいろいろなことが語られてくると思う。また、町が国や県の予算に合わせて、町としての補正も含めて対応策をどうするかを検討中だということもある。我々としても、今の時期にこの問題についてどう考え、どう行動するのかを議論しておいたほうがいいと思い、議長からも話があったので、急ぎ集まってもらった。 議論する中で「こうしたほうがいい」「こうしよう」となっている。あらかじめ、こうするとか、これを決めるとか提案するものは持ち合わせていない。ざっくばらんに皆さんの考えを聞かせていただき、お互いに議論をする形で会を進めたい。よろしいか。
	足立議長	町執行部も、町職員と一緒に、職員組合、管理職、それぞれの組織と相談しているようだ。今日は議会としてまとまって同じような行動をとるべきなのか、それとも議員各自で判断すればいいものなのか、その辺を合わせて方向を出してもらいたい。そうはいつても、今日は全議員ではないので、人によっては「私は私で」という考え方もあるかもしれない。できれば、12人が同じ歩調でしたほうがいいと思う。委員長にはその辺をお願いしたい。 執行部は今、管理職、職員組合と打ち合わせをしているので、おそらく皆が同じ方向で行動されるように聞いている。

		<p>議会は、個々なのか、12人が同じ方向を向いていくほうがいいのか、議運の中では方向を出してほしい。</p>
	田中委員長	<p>議長から問題提起があった。議会としてまとまった一つの方針に基づく行動をとるか、一人一人の議員の判断で行動することにするのか、この点についてはどうか。</p> <p>まず初めに、もらうかもらわないかということがある。</p>
	柳副議長	<p>まとまってということになった場合、ようは、10万円を給付してもらって各自で使うのか、議会として何らかの目的にと。もし後者の場合に、寄付行為との関係はどうなるか。</p>
	足立議長	<p>その辺のことがあるので、もう少し発言したい。</p> <p>執行部は、おそらく、10万円をいったんもらう。職員ももらう方向で話は進んでいると思う。特別職は、10万円の何割かあるいは全額かは別として、寄付行為等に対処するために、報酬の数か月の減額で対応しようとしているようだ。管理職は、管理職手当の何割か全額かは別として、減額しようとしているようだ。特別職も管理職も一般の職員も、給付金をもらって、もらった給付金を町内で使うと。今、20%上乘せのプレミアム商品券の発行を検討中で、そのプレミアム部分の一部に充てようとしている。</p>
	田中委員長	<p>一般の職員が10万円を町内で消費することと、プレミアム商品券との関係はどういうものか。</p>
	鈴木議会事務局長	<p>議長が言われたとおりだ。特別職の部分は、給与条例を改正して一定期間減額するものだ。管理職手当は規則なので、町長の裁量で管理職手当を2分の1とか、全額とか、まだ決まっていないが減額する議論をしている。一般の職員については、10万円を受け取ってもらって、町内の消費に還元してもらおうことを職員組合と議論をしている。</p> <p>プレミアム商品券は、これから予算を組む必要があるが、コロナ対策で国から地方に交付金があるので、それを使って20%のプレミアム付き商品券を町内で発行しようと考えている。これは町内の皆さんに20%のプレミアムを受けてもらうために、まず町民に発行して行って、もしそれが余れば、職員に10万円の給付金で購入してもらって、町内で消費してもらおう。余らなくても、職員が受け取った10万円は町内で消費して町内に還元しようと考えている。</p>
	田中委員長	<p>プレミアム商品券を町民に買ってもらうというのは何のためか。コロナ対策とどういう関係があるのか。</p>
	足立議長	<p>特別定額給付金の10万円で購入してもらおう。</p>
	田中委員長	<p>町民に配られる10万円で買ってもらうということか。</p>
	足立議長	<p>そういうことを考えているということだ。</p>
	田中委員長	<p>もらわないという人がいるのかもしれないが、もらうかもらわないかについてはどうか。</p>
	鈴木議会事務局長	<p>この給付金は、申請主義なので申請をしなければもらえない。もらえない10万円は国庫の戻ることになる。</p>
	田中委員長	<p>議員の立場からからすると、問題は申請しない理由だ。事実として、申請しなければもらえないけれど、なぜ申請しないのかという</p>

		理由だ。お金がある人はもらうべきではないということをする人がいる。
	足立議長	そこから先は、もらうかもらわないか個人の判断だ。
	田中委員長	議会としては、もらうということで行動をすることを前提に議論をしたほうが良いと思う。町のほうも、町長以下全員がもらうということが出発点だ。 もらえば町内で消費するというのを、執行部は考えている。我々は、もらってそれをどう使うかということ。それから使い方の問題として、先日聞いた話では、境港市の議長から議員に対して、市内の済生会病院に議会として使ってもらおうという話があったようで、先ほどの寄付行為に抵触する問題が出てくるので、それが最終的にどうすることになったかはまだ確認が取れていない。まとまって使う場合は、寄付行為に当たらないようにしないといけない。
	足立議長	もらうかもらわないかは、12人は、それぞれの議員で判断すればいいのではないかな。個人的には、もらわないという意見があってもいいと思う。「もらう人は」ということで考えてはどうか。
	田中委員長	議員は、議員報酬が減るわけではないのにもらうのかという意見が町民から出てくると思う。そういう意見に対応することも考えて、執行部は期間限定で特別職の給与減額、管理職手当の減額としていると思う。同じように考えると、議員も報酬の減額しかない。それであれば、全員がもらうということでなければできない。
	足立議長	言っているか分からないが、おそらく執行部は、新しく来られた病院事業管理者にはそこまで強制できないと考えていると思う。
	田中委員長	それは、話をして協力を求めればいい。
	足立議長	それは、考えていないと思う。
	田中委員長	それは、駄目ではないか。
	柳副議長	理想は、公務員だから収入が変わらないので、何らかの形で貢献をすることもあるけれど、どこまでとか、組織的にということも出てくる。もともとの給付の要件が、いわゆる低所得者や収入減の人から変更して、27日現在で住民登録されている全住民に配ることにした。10万円もらうことを前提に使い方で考えるしかない。例えば地元の車屋さんのタイヤを買ってあげて経済を回してもいい。 いい格好をして、基金を作って何かにとということもあるが、寄付行為に抵触するなどいろいろ問題が出てくる。人それぞれ考え方はあると思うけれど、私個人は、頂いて町内で消費することにしたい。給付金の目的が変わってしまった。
	澤委員	今回は、消費が冷え込んでいるということで、消費の拡大が大きな課題といわれている。それを公平性でいわれると、スーパーの経営は120パーセントに増えているところがある。公平性を考えて、岩美町内の消費を回すために何をしたらいいかを考えればいいと思う。一番分かりやすいのは、みんながもらって、みんなが全部岩美町のプレミアム商品券を買うのがいいと思う。全部町内で消費される。それをもらうだの、もらわないだの、報酬減額などと言っていると分かりにくくなる。

	田中委員長	入るお金をどこで使おうと、入るお金は増える。
	澤委員	入ったお金を全部町内で消費するために、プレミアム商品券を買えばいい。我々としては、まず地元が潤わないといけない。
	田中委員長	もらう我々は、どこで使うお金であろうと、自分のポケットに入るのは10万円増えることになる。そのことについて、自分自身の収入が減ってこの先どうなるか分からないのに、議員は報酬が減らないのに、その上10万円もらうのかという話が出てくるということを行っている。
	澤委員	議員だからとか、公務員だからということと言われるけれども、もうかっているスーパーもある。
	田中委員長	それとは比較できないと思う。
	澤委員	120%、130%儲かっている個人経営者もある。その人らも10万円もらう。だから、我々ももらって、あくまでも地元で消費するためにどうしたらいいか考えればいい。
	柳副議長	智頭などでは具体的に経済対策として、国などの制度以上に町の持ち出しでやっている。事業者にプラス10万円給付とか、そういうことを町が考えていればそれが十分景気対策になる。
	田中委員長	国からの1兆円の交付金を財源の当てにしていると思う。
	柳副議長	智頭は企業に対して独自の制度を作って、実行している。岩美町はしているかと聞かれて、今検討中だと答えたが、本当は、そういう施策のほうが、ただの5万円でも10万円でも企業に対して補てんになると思う。
	澤委員	委員長が言われた、公務員や議員は収入が減らないのに10万円もらったら収入が増えることについて、それを言い出したらもらわない方向にするしかないではないか。
	田中委員長	もらうことにする。
	澤委員	もらうなら、減ることを考えなくていいじゃないか。
	田中委員長	なぜもらうかという、誰か「お金があるからもらわない」という人がいると、本当にもらわなければいけない人がもらいにくくなる。だから一律にしている。線引きをするともらいにくくなるから、線引きをしていない。だからもらうんだ。それをどう使うかが次の話だ。
	澤委員	もらうのは、決定だな。
	田中委員長	その前提で進めている。
	澤委員	どう使うかということだけを決めればいいのか。
	田中委員長	どう使うかだ。
	澤委員	それなら、町内で消費できるからプレミアム商品券を全額買えばいいと思う。
	田中委員長	町内で消費しようと、鳥取市で消費しようと、どこで消費するかは別として、議員の田中克美に10万円が入ることは間違いない。
	澤委員	問題は、どこで使うかが大事だ。
	田中委員長	どう使うかが大事だけれど、入ることに対する違和感の意見があるから、それを踏まえてどう行動するかを考えないといけないという提起だ。

	澤委員	違和感があっても、もらうことが前提だから何も考えなくていいのではないか。
	足立議長	ようは、もっと具体的に言わないと分かりにくい。例えば、執行部は10万円をもらっても、もらった10万円相当を町のコロナ対策に充てるために、自分たちの給与のいくらかを何か月間か下げることが提案してくる。議会もそういうことを考えなくてもいいかということを行っている。
	田中委員長	町長らがもらう10万円は、結果として町が行う施策の財源になる。一般の職員がもらうものは、給料を減らすわけではないので、一般町民がもらう10万円と同じ使い方になるので、それは別の話だ。我々議員は、特別職と同じ範疇の話にするほうが、世間の気分や感情に合うのではないかと思う。
	澤委員	個人的に思うのは、もらっても全部町内の消費に使うと言ったほうが町民に説明しやすいと思う。
	田中委員長	それは、鳥取で使うお金を岩美で使うだけの話であって、10万円収入が増えていることに間違いはないわけだ。そこが問題なのだ。
	澤委員	増えているけれど、もらうことが前提だから。
	田中委員長	いや、それはもらうけれど、もらわないと、「我々はもらわない」と線を引いてしまうと、もらいにくくなる人が出てくるからだ。だから一律になっている。
	澤委員	だから、基本的にもらうだろ。
	田中委員長	だから、もらうけれど、「議員はもらう必要がない」と言う人に対して、どう対応するかということだ。町内で使えばいいという話とはちょっと違う。
	寺垣副委員長	例えば、10万円をもらって、もらった月から報酬を1万円ずつ10か月カットして、結局10万円もらうけれど、カットした10万円を町のために使ってもらうようなことだと思う。それであれば、もらった10万円は使わずに置いとくかもしれない。10万円もらったら、カットされる次の月の1万円、その次の月の1万円のために置いとくかもしれない。 プレミアム商品券の話もあったけれど、全部の事業者がプレミアム商品券を利用できる事業所に登録されるわけではないと思う。経済を活性化させる目的も多少あると思うので、なるべくなら町内で使うお金にしたいと思う。向こう10か月間のための10万円ではなくて、魚釣りのための1万円に使いたいと思う。
	澤委員	どこで使ってもお金には名前がついていない。プレミアム商品券は町内での消費になる。その辺で、どちらが町民に分かりやすいかということで、プレミアム商品券を買ったほうがいいと思う。それを使うときは町内のお店で魚の餌を買うこともできるし、10万円をリフォームに充ててもいいし、方法はいろいろあると思う。 対象にならないお店もあるかもしれないが、町内全部が対象になるのは無理な話で、リフォームに使えばリフォーム業者の従業員の家族に何らかの恩恵が出ることになる。魚の餌を買えばそのお店の家族に恩恵がいくらか出る。町内で消費すれば、町内の誰かにいく

		らかの恩恵が出てくると思う。
	田中委員長	今、コロナの感染症防止対策としていろいろ打ち出されている。経済対策だけれど、その前に不要不急の外出を制限していることで起きていることが原因で、倒産したりあってはならないことにならないように、予算を立てる方向に基本的には進んでいる。小なりといえども町もそういう観点から策を打ってくると思う。町単独では限られているから、国や県の制度と合わせてやるわけだ。できることなら、それにできる範囲で上乘せしてもっといいものにしたいという気持ちがあると思う。私は、そういうことのために、我々がもらった10万円を本当ならポンと寄付して使いたい。
	澤委員	寄附は禁止されている。
	田中委員長	だから、どうするかという話になる。寄付できるのであれば、別に議会でみんなが足並みそろえることまで考えなくていいかもしれない。それができないからどうしようかと考えると、やはりみんなで議論しないといけないと思う。
	柳副議長	議員が10万円をいただいてこれを何らかのためにということになると、寄附行為の抵触を考えたら報酬の減額しかないだろう。
	田中委員長	報酬の減額しかない。
	柳副議長	国会議員などと違って、ギリギリのところまで活動している。議員の場合、これは生活給ではない。特に町村の議員は、たいていの方が何かの仕事をしたりして、補てんしている。このコロナで、議員といえども、いろんな装置を家に付けたり、それなりの出費がある。県議会の先生とか、国会の先生のような報酬なら、それはある程度我慢しないといけないが、手取りで18万円や19万円もらっている議員が、生活が成り立っているかと言えば、成り立っていない。コロナ対策で、家でもマスク一個そうだけれど、消毒液も含めて、3個も10個も買って3万5千円も8千円も払って、こんなことをしていたら、議員といってもこのコロナでかなりの影響を受けている。報酬が県会のように70万円も80万円もあれば、それだけそうだと思うけれど、いくらかの身銭を切って、それでも生活の足しにしている。 この議論をそのままの方向で進めて、議会も社会貢献、地元貢献することにすれば、報酬の減額しかないということだ。
	田中委員長	その道しかない。
	柳副議長	私は個人的には、パツと持って、タイヤを買ってパツと使ったらいいと思っている。
	澤委員	分かりやすいのはそれしかない。
	柳副議長	基本的に議員の場合、名前を変えても、ほとんど寄附行為に抵触するだろ。
	足立議長	6人の議員でまとめられないのか。みんなそれぞれ意見があるのも十分承知している。だから今日、集まってもらった。 執行部もしようとしている。管理職もしようとしている。だけど、議会はするのかわからないのか。しないなら、しないでもいい。わずかもしようという気があるなら、それはそれでいい。

		いつまでもまとまらないような議論をしとらずに、まとめよう。6人の話だからまとめよう。
	田中委員長	まとまってほしい。
	足立議長	大勢いる管理職らでも、ああしよう、こうしようという方向が出ている。ただ、額の多い少ないは別だ。
	田中委員長	<p>もう一つ私が気にしていることは、ちょうど今、議員報酬の在り方、議会活動の在り方を議論しているさなかである。このコロナの渦中で議会として行動できないというのはどういうことなのかということに、良いか悪いかは別として、なるだろう。これがいつ収束するか分からないけれど、収束していてもしていなくても、どこかの時点で町民との意見交換会をすることになる。その時に、はっきり言ってモノが言えないと思う。金額の多寡のことはあるが、我々の姿勢というか、構えというか、心意気というか、その問題も一つ考える必要があると思っている。</p> <p>これはコロナと一緒に、いつまでも続く話ではない。1回で10万円引かれたら大変な話になるけれど、いつまでも続くものではない。町の予算は年度単位だから、その範囲で処理ができればいいと思う。財政規模からいっても金額も極々わずかな話だ。このことも私の頭の中にはある。</p> <p>コロナ禍の中で我々は町民や町内事業者のために使う一助にしてくれと、金額的には知れているけれど、我々議会として町執行部に提案ができたらいいいというのが、私の率直な思いだ。</p>
	澤委員	私の気持ちは決まっている。もらって減額しても、町内の消費の喚起にはならない。減額されて、議員皆が消費する気になるかな。
	田中委員長	消費は関係ない。今私が言っているのは、消費ではなくて町が行う施策に使ってもらうということだ。
	澤委員	私は、個人的にはもらって全額プレミアム商品券を買って町内で消費する。微動だにしない。あくまでも12人のうちの一人の意見で、これに固執するわけではない。議会がほかの判断をすれば、それに従うのは当然のことだ。
	田中委員長	たったこれだけの人数だ。多数決したくない。
	柳副議長	報酬の減額しかないだろ。1万円ずつ10か月減額すればいい。
	田中委員長	報酬の減額しかないけれど、報酬を減額するという意味は・・・
	柳副議長	委員長が説明されたように、その部分を町費から浮いた分だけ、120万円かもしれないが、違う施策に使ってもらうということ、町民に訴えれば理解してもらえらるだろう。
	田中委員長	<p>議会の行動として、町執行部に我々はこれこれこういうことで、こういう段取りで、10万円なのか11万円なのか9万5千円なのか分からないけれどそれは後に置いて、減額をしてコロナ対策として使ってくれということ、議会として申し入れて話をするということになるのが一番いいと私は思っている。</p> <p>今の時点は、町内の消費喚起の以前の話だ。</p>
	澤委員	私は、個人の意見を言わせてもらった。全体でそういうふうに決まればそれでいい。

	田中委員長	杉村委員はどう考えるか。
	杉村委員	<p>特別職や管理職の手当の減額がどれくらいかよく分からないけれど、特別職の給与は何年かで見直しているようだ。例えば今年の人事院勧告は4月にさかのぼって、もしかすると民間給与が下がって、マイナス改定もあり得ると私は思っている。そうしたときに、今回特別職の報酬を減額したとすると、それは今の状況を見据えてマイナス改定を先取りしたような位置づけになると私は思う。</p> <p>仮に、岩美町議会議員の議員報酬を減額したとしても、そもそも町村議会議員の報酬のレベルが国会や県会、市議会のものとは比べられるものではないので、また岩美町の特別職の給与とも比べられるレベルの生活ができるようなものでもない。姿勢として1万円ずつでも減額することは否定しないが、そこまでするべきなのかなという思いがする。</p>
	田中委員長	<p>誤解を避けるために言うと、報酬の基本額を変えるのではない。例えば5・6・7の3か月間、いくらかずつ減額するとか、そういう減額の仕方だ。報酬の基本額から減らすのではない。</p>
	杉村委員	<p>やり方は附則で何か月間、1万円ずつ減らすとかという形になるだろう。</p>
	田中委員長	<p>それだ。</p>
	杉村委員	<p>そのやり方について言っているのではない。コロナの問題がある以前から、私個人としては、岩美町議会に対する不信感はとても大きいので報酬について議論するのは後回しだとずっと言っている。このコロナ対策で、何も対応しないのかという意見は、今のところ私は聞いていない。町行政が何らかのことをする中で、他の自治体の議会をよく知らないが、何かしないといけないという感じもあるが、そもそもは、その町村の議会議員の報酬レベルを町民の皆さんによく理解してもらった上で、10万円もらうから10万円減額するというのは、どうなのかなと思う。</p>
	田中委員長	<p>今回コロナ対策として、いま私が言ったようなことをやった上で町民との意見交換会をするのと、それをなしで、我々は町内で消費したという対応の仕方では意見交換会をするのでは、全然違うと思う。議会がどう行動するか、議会としてどういう姿勢、構えで、町政の問題、町民の問題に立ち向かうかという姿勢の問題として考えている。金額的には、前例から見ればそんなべらぼうな金額にはならない。</p> <p>大事なものは、このコロナ危機の中で、議会としてどう行動するかということが試されていると思う。その行動がきっぱりしていたら、やっぱり議会に対する理解も広がってくると思う。そういう思いがあったので、議長からの問題提起を受けた時に、ちょうど今、議会活動の在り方を議論している過程にあったので、皆さんと一緒にいろんなことをざっくばらんに議論した方がいいと思った。</p>
	足立議長	<p>今日この場で決まらないようであれば、全協でも開いたらどうか。この場で結論が出ないのであれば、12人で多数の方向を決めることも一つの選択肢だ。</p>

	田中委員長	議長から提起があったけれど、あらためて12人の場で、議会としての行動をどうするか議論してはどうか。
	杉村委員	それは賛成するが、全協を開くなら速やかな、例えば明後日とか明々後日とかに開いたほうがいい。
	田中委員長	早いほうがいい。連休明けより連休に入る前に方向を出したほうがいい。執行部は補正予算の町長裁定を30日に予定している。全協も急ぎよだが30日にしてはどうか。午前10時でどうか。
	足立議長	いいで。
	田中委員長	次は実質的に休みに入ってしまう。県内のほかの町村がそういうことを決める可能性がある。 では議長、30日の10時から全員協議会ということでよろしく願います。
	足立議長	はい。
	鈴木議会事務局 局長	コロナ対策の申し合わせで、全協を開く部屋を議場としているが、執行部が出席しないのであれば、この部屋でもいいか。
	足立議長	議会のコロナウイルス感染症拡大防止に関する申し合わせ事項で、全協なり、委員会なり本会議の持ち方を、ここで説明させてもらったらどうか。
	鈴木議会事務局 局長	お手元に4月23日決定の「岩美町議会新型コロナウイルス感染拡大防止に関する申し合わせ事項」をお配りしている。裏面に会議の開催、運営等の中で、会議の場所を基本的に、委員会、特別委員会については、この全員協議会室で行うとしている。本会議、全員協議会は議場で行うとしている。これは執行部の出席を想定して部屋を考えたものだ。本会議場の場合、現状の議席をそのまま使うことを考えている。席の間隔をあけるとなると、議員席のほうに議長を除いた11人が座れない。そのため、現状の席に座っていただくことを考えている。その場合、マスクを着用して感染防止に努めていただきたい。 議員だけの出席なら、全協室で議長の反対側の席も使えば、特別委員会のように、間隔をあけて座ることも可能だと思う。それで先ほど、この部屋でもいいか聞いた。
	柳副議長	全協でも二つのタイプがあって、執行部が出席するものと、今回は議会内の意思確認するものになるので、この部屋でもいい。
	田中委員長	後ろ側の局長が座っているほうも使えばいい。
	足立議長	では、ここですか、議場ですか、皆さんお意向に沿うように事務局の判断でさせてもらいたい。
	鈴木議会事務局 局長	そのようにさせていただきます。
(2) その他	田中委員長	その他。
・クールビズ	足立議長	クールビズについてだ。今年も5月1日から10月31日まで、またクールビズの実施の通知が総務課のほうからあった。あらためて、今期議会として、委員会、全協、本会議等々に関する服装のことを皆さんと、きちんと打合せしたいと思う。 総務課のほうからは、皆さんの席にあるような文書が示されてい

		る。このことの範囲も併せて、あらためて相談したい。よろしく 願います。
	田中委員長	<p>取組内容の（１）軽装の奨励というところだな。</p> <p>読み上げてみると、上着及びネクタイの着用は不要。ポロシャツ及び開襟シャツなどについては、より一層の省エネルギーの観点から、着用を推奨。Ｔシャツ等襟なしのシャツについては、町や町の関連する団体及びイベント等のPRとなるもの、熊本地震、東日本大震災等の被災地を支援する目的のものに限り、着用を推奨。ビジネス用のズボン及び作業ズボン以外のズボンの着用を推奨（ジーパン・ショートパンツ・ステテコ等カジュアルすぎるものは、不可）。ラフすぎるもの、肌の露出が極めて高いものの着用は控えること。また、着こなしについても、だらけたイメージに見えないよう注意すること。町民の方々に不快感を与えないことを基本としている。サンダル、スリッパを着用する場合は、危機管理の観点からバックベルトが付いたものにする。以上だ。</p> <p>これは、去年と変わっているか。</p>
	鈴木議会事務局 局長	基本的には変わっていない。
	足立議長	<p>変わったところはないけど、本会議場においても、ここで全協するにおいても、どうかということだ。職員の場合は、ここに明示されている服装を認めなければいけないが、議会の場合はどうなのか。前期議会では話し合われたということも聞いている。あらためて今期議会の中で申し合わせをしたことはないの、あらためて申し合わせしておきたい。職員はよくて議会は駄目、議会はよくて職員は駄目ということはどうかと思う。その辺も含めて、皆さんがそれでもいいと言えば、それはそれで結構だ。皆さんの意見を聴かせてもらいたい。</p>
	澤委員	<p>上着及びネクタイの着用は不要とは、厳禁ではないな。今は上着でも極薄の上着がある。そういうのは差し支えないという判断でいいか。</p> <p>もう一つ、４番目のビジネス用のズボン及び作業ズボン以外のズボンの着用を推奨というのは、ビジネス用以外のズボンということは、カジュアルズボンということになるのか。</p>
	田中委員長	服装のことはよく分からないけど、これはどういうものか。
	澤委員	ビジネスの反対語はカジュアルだ。
	田中委員長	ビジネス用のズボンというのは何か。
	澤委員	普通のスラックスというものだ。それ及び作業ズボン以外のズボンの着用を推奨ということは、分かりやすく言えば綿パンみたいなものがある。
	田中委員長	作業ズボン以外のズボンもよく分からん。
	澤委員	綿パンになる。
	足立議長	綿パンはいいということだ。
	田中委員長	作業ズボンは駄目ということだな。
	足立議長	常識的に考えればそうだ。綿パンやスラックスはいい。

	田中委員長	替えズボンでいいということだろ。駄目なのは作業ズボンだ。
	鈴木議会事務局 局長	通常は、ビジネス用のズボンとか作業ズボンを履いているが、それ以外のズボンでもいいということだ。ただしカッコ内のものは駄目ということ。
	田中委員長	作業ズボンとはどんなズボンか。
	澤委員	綿パンも作業ズボンだ。
	鈴木議会事務局 局長	ようは、作業服だ。
	澤委員	ツナギみたいなものか。
	柳副議長	水道課の職員が出るときに着ている。
	澤委員	分類が分かりにくい。一般に人が見て不快な思いをしないような格好でいい。
	足立議長	それは、普段はいいけれど、議場でもそれでいいか。そこを改めて言っている。町職員に示されている庁舎内での格好で、議場でもいいかということだ。職員はそれでもいいということになっている。これからは、職員がそういう格好で議場に入ってきてても、駄目だとは言わない。
	寺垣副委員長	下は、サンダルやスリッパでもいいということだな。
	足立議長	それは、バックベルトが付いている場合は、履いてもいいということだ。
	柳副議長	議会で議論しているのに、さすがにスリッパやサンダルというのはどうか。
	鈴木議会事務局 局長	これまでの議会の服装について整理させてもらおうと、男性の場合、基本的に議場では上着とネクタイを着用という考え方があって、クールビズの期間は、上着とネクタイを外してもいいということだ。その程度の考え方だ。カッターシャツは長袖でも、半袖でも認めようということできている。議場でサンダルということまでは言っていない。
	足立議長	私が今日言っているのはそういうことではない。執行部の文書のレベルまでやってもいいかということを確認しようとしている。議会も、職員もだ。職員はこれでいいことになっている。だから議会もこれでいいかということだ。この文書が議会にも回されている。 今、局長が言った、上着を外す、ネクタイを外すというレベルではなく、この文書のままやれば、職員と同じレベルの議員の服装も許可することになる。
	杉村委員	以前も申し上げたが、いわみんのポロシャツを着て会合に出席して、今後そういうことがあったら当時の総務教育常任委員長が懲戒処分の対象にすると行って、当時の総務教育常任委員の皆さんも承知している。それ以後、面倒くさいので着ていない。 この文書を素直に読めば、いわみんのポロシャツは襟があるが、Tシャツさえそういう目的のものであれば、推奨している。具体的にいわみんのポロシャツなどのPRのついているポロシャツであれば、本会議でもいいというふうにこの文書は読める。具体的な話をしていかないと、話が伝わらない。

	足立議長	だから具体的な話をしている。過去にどうかこうとかという話はやめよう。
	柳副議長	これはあくまでも職員向けの文書だ。議会として住民に対しても、特に本会議場では、さきほど局長が言ったような、きちんとした上着とネクタイを外す程度の軽装と捉えるべきだと思う。委員会室や全協室では今後ポロシャツということがあるかもしれないけれど、現時点ではやはり議会はネクタイと上着を外した軽装とみなすのが良識だと思う。町民はそういうポロシャツを着ているからといって拍手喝采はしないと思う。やはり議会で審議する際はそれなりの格好をするべきだと思う。
	澤委員	みんなが統一しないといけないのか。
	足立議長	違う。最低限の枠を決めようとしている。みんなが統一してポロシャツを着るということではない。
	澤委員	上着ぐらいいは、着たい人は着ればいいと思う。本会議場では上着ぐらいいは着てもいい。
	足立議長	全員がということか。
	澤委員	着たい人は。
	田中委員長	着たい人はいい。
	足立議長	着たくない人は着なくてもいいということを決めたいほしい。議長として、これは駄目、これを着て来てとか、これでいいとか、言えるように決めておいてほしい。
	柳副議長	最低限、本会議場では男性議員はカッターシャツを着ないといけないと思う。
	杉村委員	これまでの状況では、暑いからもっと温度を下げてという発言がよくあった。上着や重ね着をしている人からそういう声が上がっていたと思う。冷房設定温度の28度を絶対を守るという姿勢がなければ、どういう服を着るということの議論は進まないと思う。
	田中委員長	28度を下げろという意見があったということか。
	足立議長	それは変わらない。
	杉村委員	委員会室は南側で日当たりが良いので、暑いこともあるので気持ちは分かるけれど、実質的に28度より暑く感じることもあったのか、温度を下げてという発言をよく聞いていた。そういう人に限って上着を着ていたり、重ね着をしている人からそういう発言があったように受け止めている。28度は絶対だという認識を新たにしようとして、どんな服装にするかを議論してほしい。
	足立議長	いろいろな意見があるので、本会議に関しては、議員は上着をとってネクタイを外したカッターシャツの状況を軽装とし、全員協議会や委員会では職員と同じようなレベルまではOKとするということはどうだろうか。今年、試験的にしてみてもどうか。
	田中委員長	本会議場は、半袖カッターでネクタイなしでいいということだな。
	足立議長	軽装ということで、今までの解釈の範囲内だ。ただし、本会議以外の場では、職員並みのことを今年やってみてもどうか。
	杉村委員	賛成する。

	足立議長	副議長はどうか。折衷案だ。委員会でも、全協でも、それぞれ自分で思う範囲での軽装をしてもいいということを、今年は試させてもらいたい。
	田中委員長	着るものはそれでいいが、サンダル、スリッパはどうするか。
	足立議長	そこは、靴にしよう。今年は靴にしよう。
	寺垣副委員長	今はやりの丸いスリッパというかサンダルというかはどうか。
	足立議長	靴だと言っている。それは靴なのか。
	寺垣副委員長	いや、申し訳ない。
	澤委員	イベント等のPRとなるものは、過去のイベントシャツはどうか。
	足立議長	例えば浦富健康マラソンやキッズトライアスロンとか、継続して今でも毎年新しいものが出ている。
	田中委員長	前のものでもいいと思う。
	足立議長	それでいいと思う。
	澤委員	ようは、元になるイベントがあればいいということか。
	足立議長	でも、今年は試験的だ。やってみて「ちょっと」ということがあればその時に相談しよう。 ただし、本会議では今までのような状態をお願いする。
	田中委員長	本会議場以外では、職員と同じ扱いにする、本会議についてはカッターシャツで、上着とネクタイは付けなくていいということだな。
	澤委員	本会議は上着を着てもいいか。
	田中委員長	別に、着てもいいけど着なくてもいい。 履物は、サンダル、スリッパでもいい。ここは靴にしよう。
	足立議長	以前は、黒いスリッパが全員に支給されていた。
	柳副議長	議長の頃は支給かもしれないが、私の時は3千いくら請求された。本会議室では履いては駄目と言われていた。
	足立議長	ぼくらの時はOKだった。控室に着いたら、履き替えてと言われていた。
	杉村委員	28度、これは守るということでもいいな。
	田中委員長	これはもう、そうだ。
	柳副議長	岩美町は、ISOで決まっているだろ。
	足立議長	総務に交渉したけど、28度より下げられないと言われた。間違いない。
	田中委員長	クールビズは以上でよろしいか。
	足立議長	総務課にも伝えといて。
	鈴木議会事務局長	職員のほうも、本会議場は、今言われた対応になるか。 職員は、委員会室も本会議場もこの文書の範囲でいいか。
	田中委員長	文書の範囲でいい。空気を読んでくるだろう。
	足立議長	寺垣副委員長が言うスリッパみたいなものは駄目だ。
	鈴木議会事務局長	分かった。職員にもそのように周知する。
	田中委員長	そのほかあるか。
・コロナ対応	鈴木議会事務局	コロナ対応の議会運営について、お手元に配付している。

	局長	
	足立議長	これを読んでもらって、承知してもらって。
	田中委員長	周知したらそれでいい。
	鈴木議会事務局 局長	議長からも、コロナに対する議会の動きを住民に分かりやすく伝えるように指示を受けている。ホームページや傍聴の案内をする行政無線などで伝えていきたい。
	足立議長	執行部にも言っている。執行部がするコロナ対策やいろいろな政策については、できる限り町民に分かりやすいように発信してほしいとお願いしている。
	田中委員長	ほかになれば、終わりたい。
	鈴木議会事務局 局長	申し訳ない。もう一つ気になっていることがある。先ほどコロナ対策について申し上げたが、本会議場では席を離して座ることができないので、執行部も議員も従前の席に座っていただく。ただ、執行部は、議題があるとき、説明が必要なときに上がってきてもらって、終わったら下りてもらおう。それで密度を下げることができる。 ほかの議会にも聞いているが、議場はなかなか席を離して座ることができなくて、市議会もこの前臨時会を開いているが今までと同じような形で着席したと聞いている。市議会はこのたび新しい庁舎になって、24時間空気を換気するシステムがあつて、それを作動させ、扉を開けたままにはしていないと聞いた。 岩美町議会は、扉を開けた状態でさせてもらおうと思う。
	足立議長	こうやってコロナ対応を始めるが、しまい方は議長と副議長でよく相談をしたい。例えば扉を閉めるなど元に戻すときは、こちらの判断でさせてもらいたい。
	田中委員長	よろしいね。議会運営委員会を終わる。
4. 閉会	田中委員長	以上で、議会活動の在り方検討特別委員会を終わる。
		閉会 午後3時30分

上記のとおり会議の次第を記録し
これを証するため、ここに署名する

岩美町議会
議会運営委員会委員長

田中克美